

ニッポンの「特別な仕事」特集!

# BRUTUS

2007.11.1 特別定価 580円

日本を引き継ぐ!  
スペシャルな  
仕事案内

全33種  
求人情報付き

第2特集

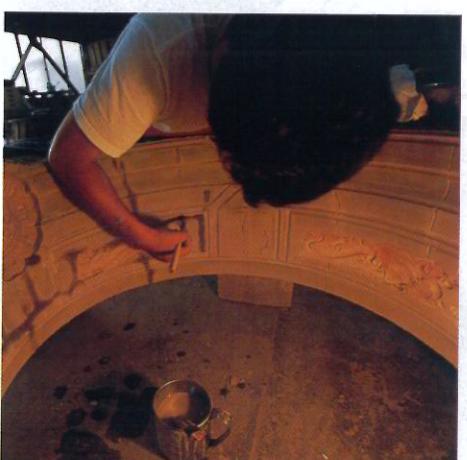
トラディショナルな日本のスーツ

表面の文字は、型で鋳込む場合と、このように仕上げの段階で表面に彫る彫金の場合がある。根気のいる細かい作業。



木枠の内側が砂型で、梵鐘の外型になる。型の砂は、耐火度の高い川砂を使う。バーナーで焼いて固め、壊して何度も使う。

出荷を待つ梵鐘。「自分たちが作った鐘を、あとからこつぞり見に行くこともあります」と常務。もちろんひそかに撞いてみる。



砂型の内側の鋳肌をきれいにする。こうした文字や柄をつける鎌型は、かつては木型で作つたが、今は樹脂が主流だ。

## 職種

### 鍛物・梵鐘製作

●富山県

#### 老子製作所

●仕事内容／梵鐘を中心とした鍛物製造。●勤務時間／8時15分～17時15分（人によっては9時出社、その場合は18時まで）。休みは、日曜・祝日・第2・第4土曜を含む年間100日。●条件／年齢・性別・経験問わず、情熱が一番。チームで仕事をするので、明るい性格の人が望ましい。工場は炉があつて暑いが、慣れるので心配無用。●待遇／状況によって違ってくる。●詳細はp.114参照。

どんな小さな町にも寺はある。そしてそこには必ず梵鐘があって、誰でも自由に撞いていい。除夜の鐘に代表されるように、鐘の音には煩惱を払い清める役割があるからだ。人が住むところに梵鐘あり。それは、一体どこで、誰が作っているのか。

**富** 山県高岡市は、鍛物の産地として知られる。市内の工業団地にある老子製作所は、日本全国の梵鐘を作っている鍛物工場として名高い。代々老子次右衛門を名乗る社長は、現在13代目。注

文は世界各国から来る。最近は台湾からの注文で、重さ約25tという巨大な梵鐘を作った。

古来からある惣型鍛物で作る梵鐘は、円形の外型と円錐のような内型の間に、熔かした金属を流し固める。型は砂と水と粘土を混ぜ、焼き固めたもの。金属は銅合金。型を作る人、型から外す人など分業で、すべて手作業である。

職人であり、総勢15名の工場を指揮するプロデューサーでもある常務は、「梵鐘の命は、音」だという。音を決めるのは「姿形、金属の組織と肉厚のバランス、そし

て何で撞くか」。鐘を撞く鐘木の長さや太さなどの吟味も、実は大切なのだ。

梵鐘は、口と数える。何千口も作ってきた職人でさえ、「鍛込み」の前は眠れない日々が続くという。炉で熔かした湯（金属を熔かしたもの）を、型に流す作業は一発勝負。その緊張と興奮が、あまたの鍛物職人を虜にしてきた。

大きな鍛込みを終えた後は、しばらく腑抜けになる。

完成したものは試しに撞いてみる。生まれたばかりの鐘の音聞く瞬間が「いちばんうれしい」。

## 煩惱を払い清める響き

引き継ぐもの

32



着色の前に、仕上げに向けての作業。女性の応募が多かった時期があり、今でも女性の職人が働いている。担当の作業工程は、希望によりひとり通り経験することも可能。



誰よりも先に、その鐘の音を聞けるのが特権です。